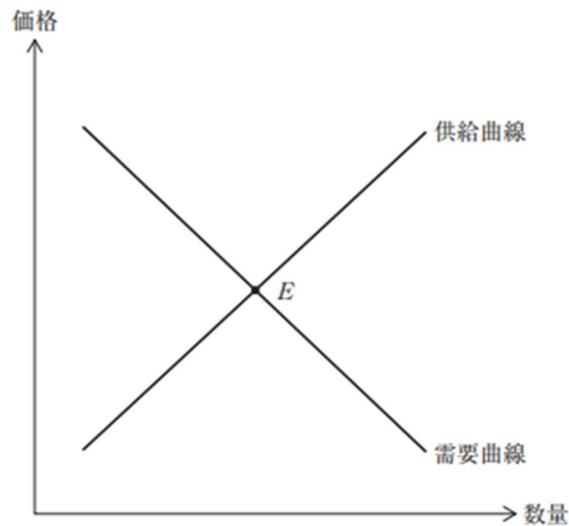


SHEET3 需要曲線と供給曲線

レベル1

R3 第13問

市場取引において、売り手の行動を表す曲線は「供給曲線」、買い手の行動を表す曲線は「需要曲線」と呼ばれている。下図に基づき、供給曲線と需要曲線のシフト要因と、均衡価格の変化に関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。なお、点 E が初期の均衡を示している。

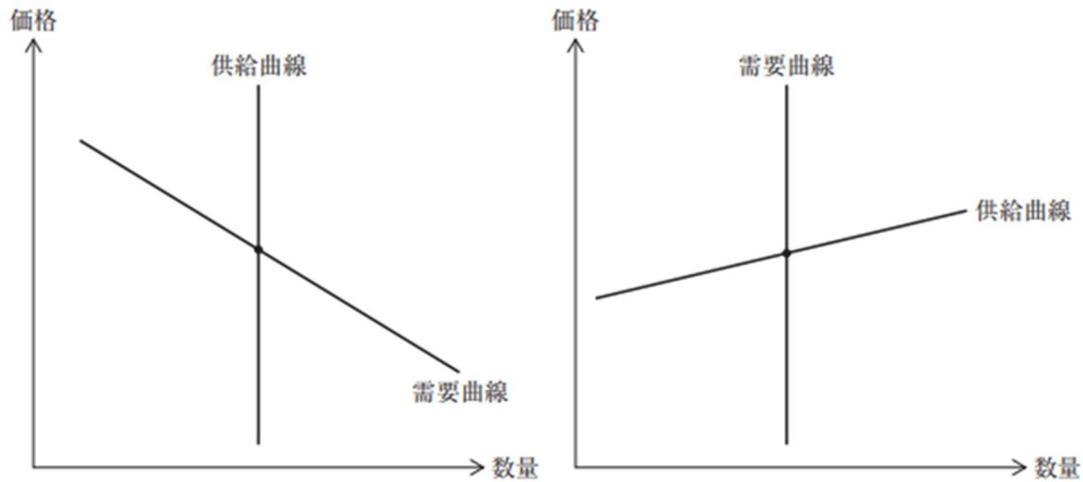


〔解答群〕

- ア 技術の進歩によって供給曲線が左方にシフトし、嗜好の変化によって需要曲線が左方にシフトすると必ず均衡価格が上昇する。
- イ 技術の進歩によって供給曲線が右方にシフトし、所得の増加によって需要曲線が右方にシフトすると必ず均衡価格が上昇する。
- ウ 原材料費の下落によって供給曲線が左方にシフトし、嗜好の変化によって需要曲線が右方にシフトすると必ず均衡価格が上昇する。
- エ 原材料費の上昇によって供給曲線が左方にシフトし、嗜好の変化によって需要曲線が左方にシフトすると必ず均衡価格が下落する。
- オ 原材料費の上昇によって供給曲線が左方にシフトし、所得の増加によって需要曲線が右方にシフトすると必ず均衡価格が上昇する。

R3 第 14 問

左図では供給曲線が垂直になっており、また、右図では需要曲線が垂直になっている。需要曲線がシフトする場合の売り手の収入の変化に関する記述の正誤の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



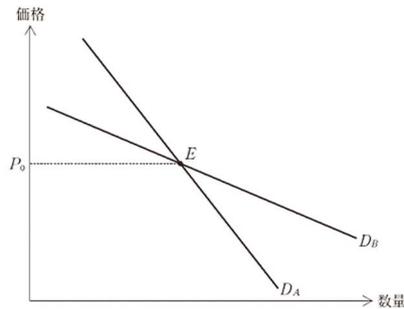
- a 左図では、需要曲線が右方にシフトするとき、売り手の収入は減少する。
- b 右図では、需要曲線が右方にシフトするとき、売り手の収入は増加する。
- c 需要曲線が左方にシフトするとき、両方の図で、売り手の収入は減少する。

〔解答群〕

- ア a : 正 b : 正 c : 誤
- イ a : 正 b : 誤 c : 誤
- ウ a : 誤 b : 正 c : 正
- エ a : 誤 b : 正 c : 誤
- オ a : 誤 b : 誤 c : 正

H30 第 12 問

下図で D_A と D_B は、それぞれ商品 A と商品 B の需要曲線である。このとき、商品 A と商品 B の需要の価格弾力性に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。



- a 価格が P_0 から下がると、商品 A の需要の価格弾力性は大きくなる。
- b 価格が P_0 から上がると、商品 B の需要の価格弾力性は大きくなる。
- c 点 E では、商品 A の需要の価格弾力性は商品 B の需要の価格弾力性よりも大きい。
- d 点 E では、商品 A の需要の価格弾力性は商品 B の需要の価格弾力性よりも小さい。

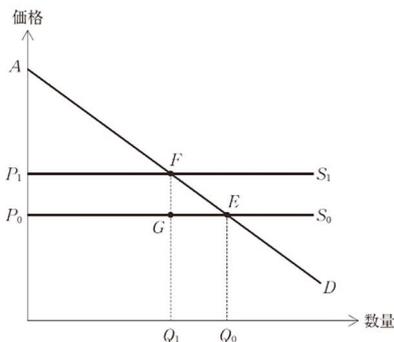
〔解答群〕

- ア a と c イ a と d ウ b と c エ b と d

H30 第 15 問

消費税の課税については、価格、取引量の変化や税収の金額に加えて、実際に税金を負担するのは誰かという問題も重要となる。下図では、供給の価格弾力性が無限大である場合を考える。ここで、生産物 1 単位当たり T 円の課税を行うと、供給曲線 S_0 は新しい供給曲線 S_1 へとシフトする。また、需要曲線は D である。

この図に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。



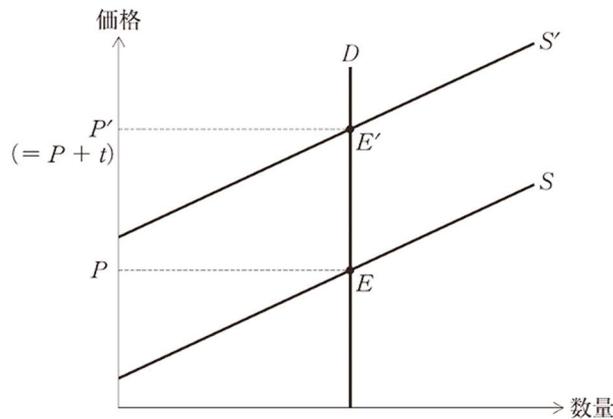
- a 消費税の課税により、市場価格は P_0 から P_1 に上昇し、取引量は Q_0 から Q_1 に減少する。
- b 消費税の課税を行うと、消費者余剰は $\triangle AEP_0$ から、 $\triangle EFG$ の分だけ減少する。
- c 消費税の課税を行うと、税負担の一部が生産者に転嫁される。
- d 消費税の課税により、政府に入る税収は、 $\square P_1FGP_0$ である。

〔解答群〕

- ア a と b イ a と c ウ a と d エ b と c オ c と d

H29 第 11 問

下図によって間接税(従量税)の経済効果を考える。需要曲線を D 、課税前の供給曲線を S 、課税後の供給曲線を S' で表す。税は生産物 1 単位当たり t とし、納税義務者は生産者とする。下図では、税負担がすべて消費者に転嫁されている。この図に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。



- a 税負担がすべて消費者に転嫁されるとき、消費者の支払う税額は四角形 $PEE'P'$ で示される。
- b 税負担がすべて消費者に転嫁されるとき、生産者の受け取る価格は課税前に比べて t だけ低下する。
- c 税負担がすべて消費者に転嫁されるのは、需要の価格弾力性がゼロだからである。
- d 税負担がすべて消費者に転嫁されるのは、生産量の増加に伴って限界費用が増加するからである。

[解答群]

- ア a と c イ a と d ウ b と c エ b と d

H29 第 13 問

需要の価格弾力性は、価格の変化によって売上額に影響を及ぼす。需要の価格弾力性と価格戦略に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

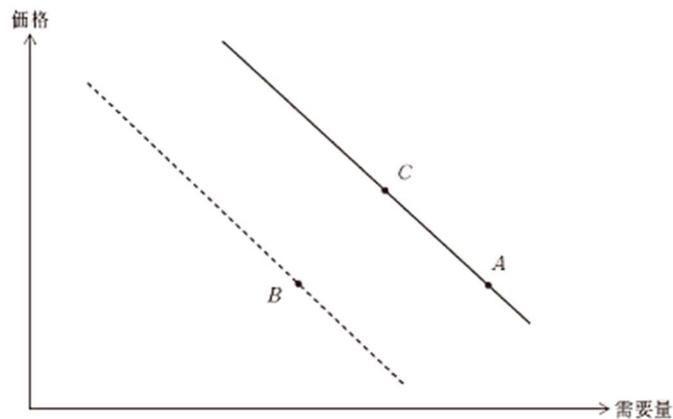
- a 需要の価格弾力性が 1 より小さい場合、企業が価格を引き下げる戦略をとると、売上額は増加する。
- b 需要の価格弾力性が 1 より小さい場合、企業が価格を引き上げる戦略をとると、需要が減少して、売上額も減少する。
- c 需要の価格弾力性が 1 に等しい場合、企業が価格を変化させる戦略をとっても、売上額は変化しない。
- d 需要の価格弾力性が 1 より大きい場合、企業が価格を引き下げる戦略をとると、売上額は増加する。

[解答群]

- ア a と b イ a と c ウ b と d エ c と d

H28 第 12 問

いま、正常財と考えられる医療に対する需要曲線が下図のように描けるものとする。現状は実線で描かれている需要曲線上の点 A であり、同一の需要曲線上には点 C もある。また、破線の需要曲線上には点 B が描かれている。この図を用いて需要の変化の仕方を考察した記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

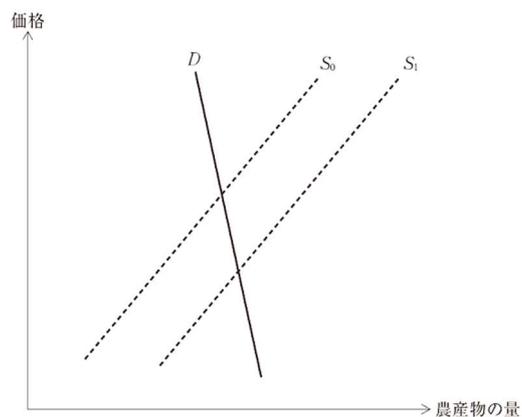


[解答群]

- ア 医療の価格を引き上げたとき、医療に対する需要は、点 A から点 B まで移動すると考えられる。
- イ 医療費の抑制が必要であることを需要者に説得できたとすれば、たとえ価格が変化しなくとも、医療に対する需要は、点 A から点 B まで移動すると考えられる。
- ウ 需要者の所得が増加すれば、医療に対する需要は、点 A から点 C まで移動すると考えられる。
- エ 需要者の所得が増加すれば、たとえ価格が変化しなくとも、医療に対する需要は、点 A から点 B まで移動すると考えられる。

H28 第 13 問

下図では、需要の価格弾力性が 1 より小さい農産物の需要曲線 D が実線で描かれている。また、当該農産物の供給曲線は破線で描かれており、好天に恵まれるなどの外生的な理由によって、供給曲線が当初の S_0 から S_1 へシフトしたものとする。この図に関する説明として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



[解答群]

- ア 供給曲線の右へのシフトは、価格の低下による需要量の増加はあるものの、生産者の総収入を減少させる。
- イ 供給曲線の右へのシフトは、価格の低下による需要量の増加を通じて、生産者の総収入を増加させる。
- ウ 供給曲線の右へのシフトは、価格を低下させるものの、需要量には影響を与えない。
- エ 供給曲線の右へのシフトは、価格を低下させるものの、生産者の総収入には影響を与えない。

H27 第 18 問(1)

財務省によれば、わが国の 2013 年度末の公債残高は、GDP の 2 倍程度であり、財政再建の必要性が指摘されている。財政再建のためには、行政の効率化による支出削減と増税による収入増とを適切に組み合わせることが必要になろう。こうした状況を踏まえて、以下では税に関する経済モデルを考えている。下記の設問に答えよ。

(設問 1)

いま、価格に反応しない垂直な需要曲線と一定の傾きを持つ供給曲線が、それぞれ実線の直線で下図に描かれている。このとき、政府が従量税を課すと、図中の点線の直線で示されているような形で課税後の供給曲線が描かれるものとする。この図に関する説明として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

なお、以下では「税の大きさ」とは財 1 単位あたりの税を意味する。

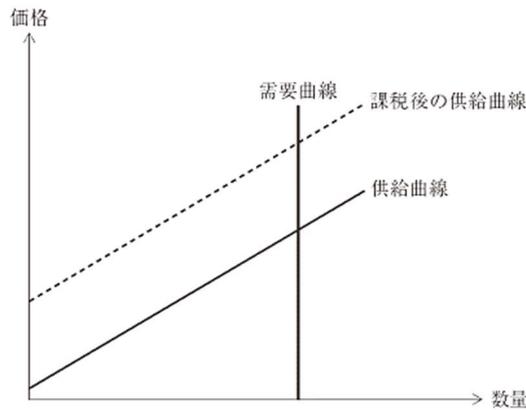


図 A

図 B

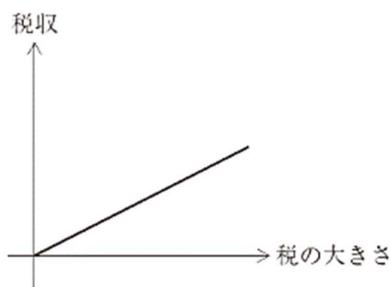


図 C

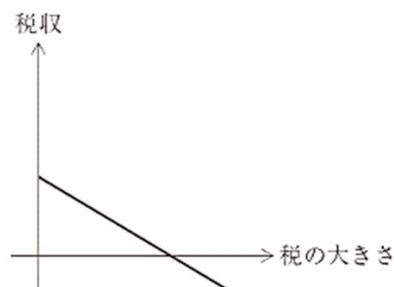
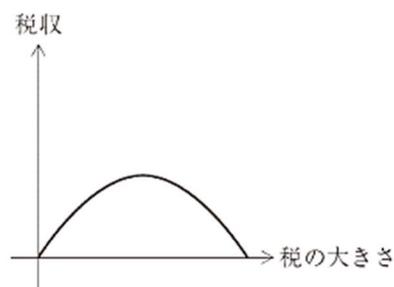
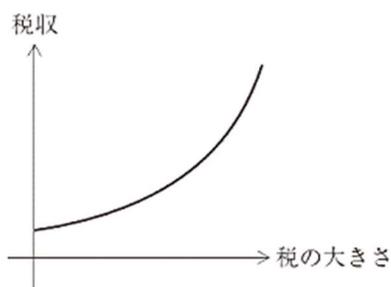


図 D



[解答群]

- ア 税収と税の大きさには図 A のような関係があり、課税による死重損失は発生しない。
- イ 税収と税の大きさには図 B のような関係があり、課税によって死重損失が発生する。
- ウ 税収と税の大きさには図 C のような関係があり、課税によって死重損失が発生する。
- エ 税収と税の大きさには図 D のような関係があり、課税によって死重損失が発生する。
- オ 税収と税の大きさには図 D のような関係があり、課税による死重損失は発生しない。

H24 第 12 問

次の文中の空欄A～Dに当てはまる語句として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

市場において、供給量が需要量を上回っているならば、市場では、価格が[A]する圧力が生じ、逆に、需要量が供給量を上回っているならば、価格が[B]する圧力が生じる。

その市場に、市場の内部ではコントロールができない、また、市場がその発生を抑止できない力が加わった場合を考える。例えば、突然の自然災害によって、工場や機械などの生産設備が破壊された場合、[C]が減少することで、[C]曲線は[D]方向にシフトする。

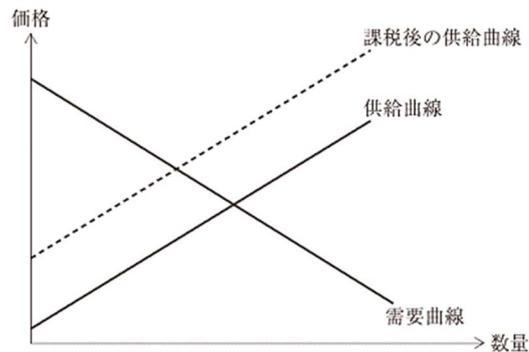
[解答群]

- ア A：上昇 B：低下 C：供給 D：右
- イ A：上昇 B：低下 C：需要 D：右
- ウ A：低下 B：上昇 C：供給 D：左
- エ A：低下 B：上昇 C：供給 D：右
- オ A：低下 B：上昇 C：需要 D：左

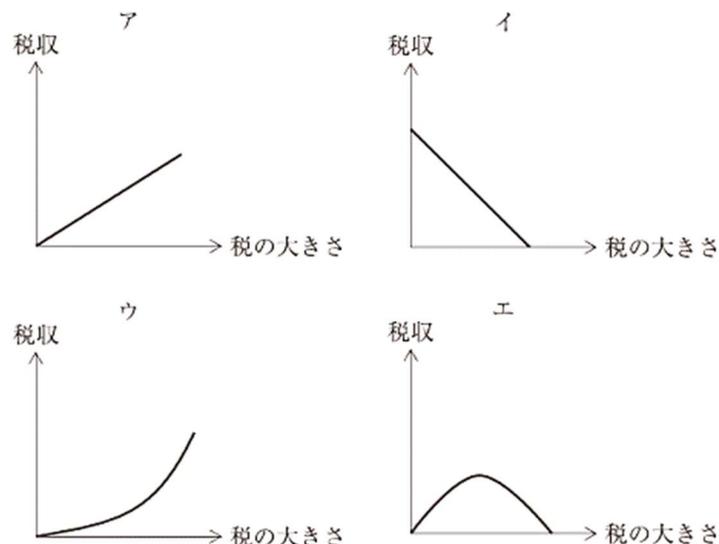
H24 第 13 問

いま、需要曲線と供給曲線を下図のような直線で表すものとする。

このとき、政府が点線で示されているような形で従量税を課す場合、税収と税の大きさ(財 1 単位あたりの税)との関係を表す図として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



[解答群]

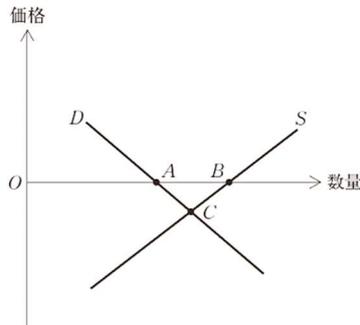


レベル2

H30 第 11 問

下図は、一部の中古品のように、財そのものがマイナスの効用を消費者にもたらし、費用をかけて処理されなければならない場合を描いている。

この図に関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

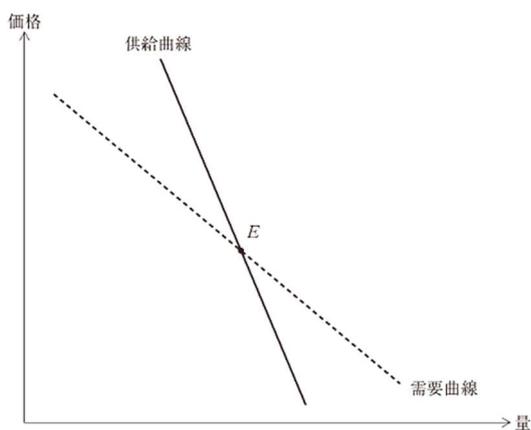


〔解答群〕

- ア 価格が負の値をとる領域では、お金を支払って中古品を出す家計の行動を需要曲線 D が、お金を受け取り中古品回収を行う業者の行動を供給曲線 S が示している。
- イ 供給曲線 S 上で点 C から点 B の方への動きがあるとき、中古品の処理費用が高くなり、家計が中古品を出さなくなっていることがわかる。
- ウ 均衡が点 C である場合、この中古品は経済財となる。
- エ この中古品のリサイクルに関する技術進歩があると、同じ処理費用で多くの中古品を処理できるので、需要曲線 D が右方シフトする。

H28 第 14 問

下図には、相対的に緩い傾斜の需要曲線が破線で描かれ、相対的に急な傾斜の供給曲線が実線で描かれている。これら需要曲線と供給曲線の交点は、点 E として与えられている。この図に関する説明として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



〔解答群〕

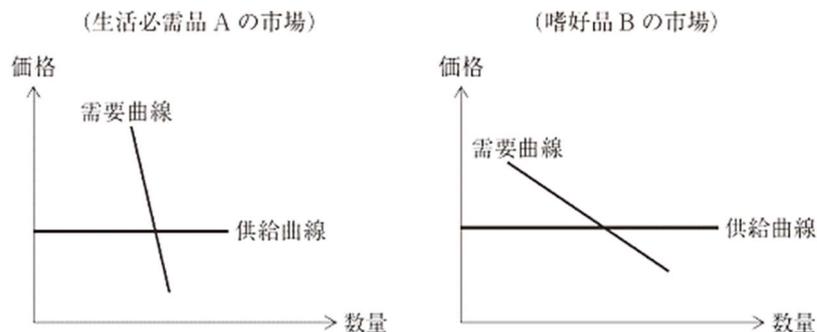
- ア 供給曲線が右下がりであるため、ワルラス的調整を通じて点 E へ収束する力は働かない。
- イ 供給曲線の傾きが相対的に急であるため、「蜘蛛の巣理論」による調整を通じて点 E へ収束する力は働かない。
- ウ 交点よりも価格が高いとき、需要量よりも供給量が多いため、価格調整を通じて点 E へ収束する力が働く。
- エ 交点よりも数量が少ないとき、供給価格が需要価格よりも高いため、マーシャル的な数量調整を通じて点 E へ収束する力が働く。

H27 第 18 問(2)

財務省によれば、わが国の 2013 年度末の公債残高は、GDP の 2 倍程度であり、財政再建の必要性が指摘されている。財政再建のためには、行政の効率化による支出削減と増税による収入増とを適切に組み合わせることが必要になろう。こうした状況を踏まえて、以下では税に関する経済モデルを考えている。下記の設問に答えよ。

(設問 2)

一般に、生活必需品 A に対する家計の需要曲線は、価格に対して非弾力的であり、下記の左図のように描くことができる。他方で、贅沢な嗜好品 B に対する家計の需要曲線は、価格に対して弾力的であり、下記の右図のように描くことができる。企業による供給曲線は、これら A と B の 2 財において価格弾力性が十分に大きく(無限大)、水平な直線として描くことができるとする。このとき、政府によって企業へ従量税が課される場合の説明として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



[解答群]

- ア 嗜好品 B への課税では、企業へ帰着する税の負担は、家計へ帰着する税の負担より大きい。
- イ 嗜好品 B への課税では、企業へのみ税の負担が帰着する。
- ウ 生活必需品 A への課税では、家計へのみ税の負担が帰着する。
- エ 生活必需品 A への課税に比べて、嗜好品 B への課税は、死重損失が小さくなりやすい。

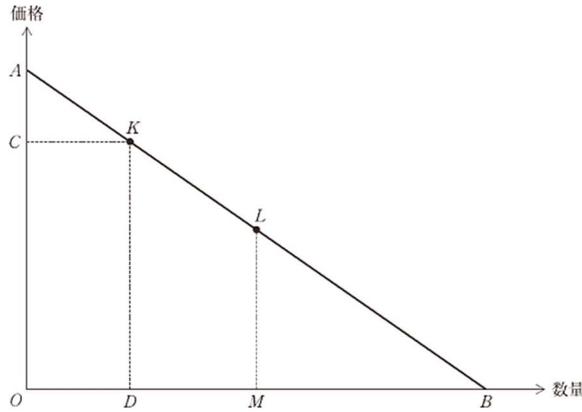
H25 第 15 問

いま、下図のような線形の需要曲線 AB を考える。需要曲線 A 上の点 L は、線分 OM と線分 MB の長さが等しくなるような線分 AB の中点である。需要曲線 AB 上の点 K は、点 L より左に位置している。需要曲線の価格弾力性 ϵ の絶対値 $|\epsilon|$ は、価格を p 、数量を x とし、価格が微少に Δp だけ増加したときの数量の微少な変化分を Δx とすれば、

$$|\epsilon| = \frac{\frac{\Delta x}{x}}{\frac{\Delta p}{p}} = \frac{\Delta x}{\Delta p} \frac{p}{x}$$

と書き表すことができる。この需要曲線に関する説明として最も **不適切** なものを下記の解答群か

ら選べ。



[解答群]

ア 点 K における $\Delta x/\Delta p$ は、線分 OD の長さを線分 AC の長さで除した値と等しい。

イ 点 K における p/x は、線分 OC の長さを線分 OD の長さで除した値と等しい。

ウ 点 K の需要の価格弾力性は、線分 BD の長さを線分 OD の長さで除すことで求められる。

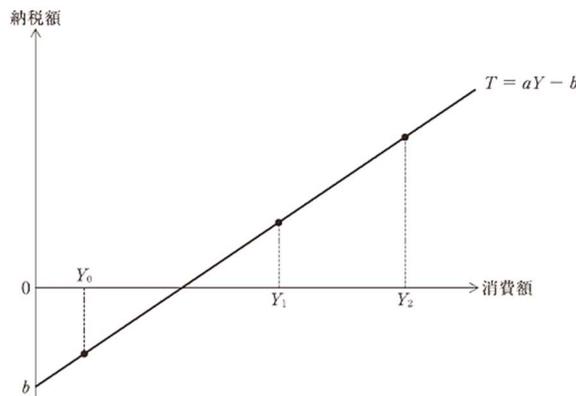
エ 点 L の需要の価格弾力性は 1 より大きい。

H25 第 18 問

いま、消費額に応じて定率 $a\%$ で課税する制度を新規に導入しようとしている。

ただし、すべての課税対象者に対して定額 b を現金で給付する制度も併せて導入する。このとき、新しい制度に伴う納税額 T は、消費額を Y とすれば $T=aY-b$ と書くことができ、下図のように描くことができる。なお、下図で平均税率とは、納税額を消費額で除した値 (T/Y) で表されるものとする。

この図に関する記述として、最も **不適切** なものを下記の解答群から選べ。



[解答群]

ア 課税対象者に対する現金の給付額 b を変化させても、消費額 Y_1 の個人が直面する平均税率は変わらない。

イ 高額な納税者ほど平均税率は高くなっているため、その意味では、この制度は累進的である。

ウ 消費額 Y_0 の納税者は、この制度の導入によって実質的に可処分所得が増加する。

エ すべての納税者にとって、消費額を 1 単位増やしたときの限界税率は等しい。